

株式会社アイ・ティー・ワン
License Generator 説明書 ver. 1.5

はじめに

License Generator (ライセンスジェネレータ) をお買い上げいただきましてありがとうございます。本書は、License Generator の概要と操作手順について記述しています。貴社パッケージソフトウェア製品への実装方法については、別紙のライセンスジェネレータ開発マニュアルをご覧ください。

操作手順について下記の流れで説明いたします。

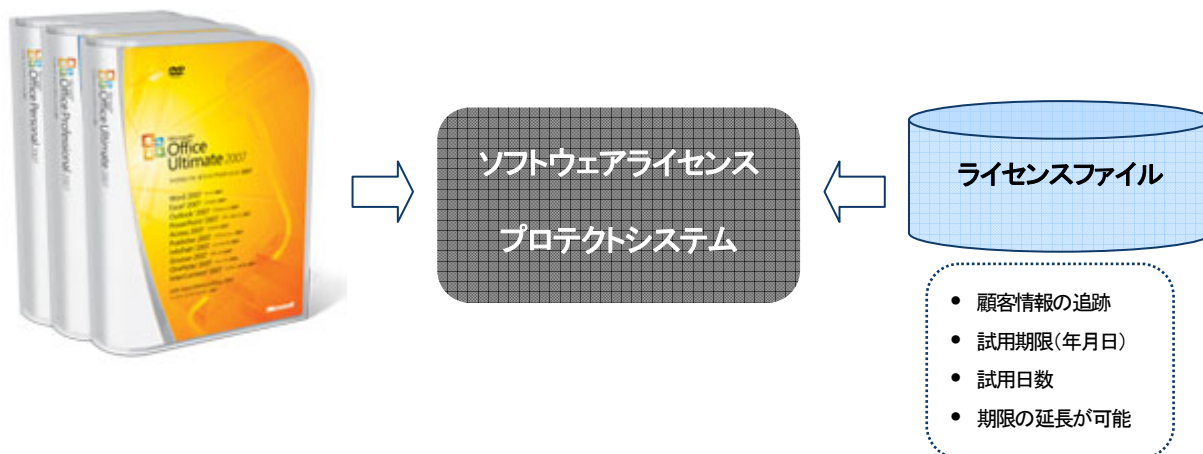
- | | |
|--|----------|
| 1. インストール/アンインストール | ・・・ p. 4 |
| 2. プログラムの起動 | ・・・ p.10 |
| 3. パッケージソフトウェア製品へのライセンスプロテクト機能の実装方法 (詳細は別紙のライセンスジェネレータ開発マニュアルをご覧ください) | ・・・ p.15 |
| 4. ライセンス発行手順の例 | ・・・ p.16 |
| 5. その他の操作 | ・・・ p.27 |

【重要】 試用版 License Generator の制限事項について (製品版では、本項は該当しません)

- 試用の開始日から起算し 45 日を越えると認証番号の入力が必須となります。
- 同一 PC には 1 回のみインストールすることができます。(複数回インストール不可)

License Generator の概要

企業で開発したパッケージソフトウェア製品においては、不正コピーをさせないための何らかの仕組みが必要です。株式会社アイ・ティー・ワンでは、不正コピー防止ソリューションとして、パッケージソフトウェア開発元の企業様向けに License Generator をご提供いたします。



パッケージソフトウェア製品の販売には、その製品の試用ができることが重要です。特にダウンロード販売を行う場合には必須条件と言えます。当社のライセンス・プロテクト システムは、パッケージソフトウェア製品の試用に必要な機能をすべて提供可能です。

- ◆ 試用期間として期限 (年月日) を指定可能
- ◆ 試用期間として日数を指定可能
- ◆ 有効期限を超過してもなお、継続して試用を希望されるお客様には、期限の延長が最大 4 回まで可能

[補助機能]

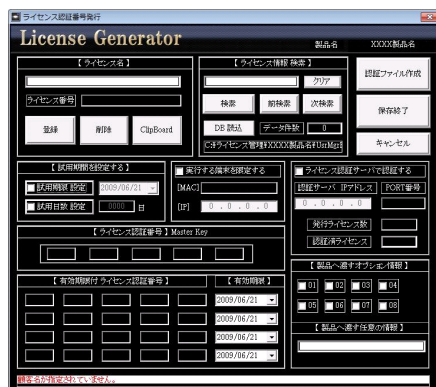
- ◆ 試用版ソフトウェアの連続使用防止機能
- ◆ 日付戻し使用の防止機能

製品特長

- 多様なライセンス発行条件を指定することが可能
 - 期間設定： 期限指定(YYYY/MM/DD まで) / 日数指定(DDDD 日間) / なし (永久使用)
 - 端末限定： MAC アドレス限定 / IP アドレス限定 / 両方 / なし
 - 認証方法： スタンドアローン (ローカル) 認証 / インターネット認証
- パッケージソフトウェア製品の新たなビジネスチャンスを創出
 - ✓ 試用版 (トライアル版) を広範囲に配布する 見込み客の新規開拓
 - ✓ 年次契約の販売方式を可能にする 販売機会の増加
 - ✓ インターネット認証により不正コピー使用を防止する 収益機会の増加
 - その他...
- ライセンスプロテクト機能の実装が容易
 - 🔧 必要なモジュールが All-in-One
 - 🔧 実装用のサンプルソースコードをご用意 (ライセンスジェネレータ開発マニュアルに記載)

提供モジュールの内容

【パッケージソフトウェア開発元で運用するモジュール】



① ライセンスジェネレータ

- ◆ ライセンス認証番号発行画面
GENLCS.exe

② アクティベーションサーバ

- ◆ ライセンス認証サーバプログラム
ATSERVER.exe
(アクティベーションサーバ 本体)
- ◆ ライセンス認証モニター画面
ATMONITOR.exe
(アクティベーションサーバ ビューア)

【パッケージソフトウェアに同梱して配布するモジュール】

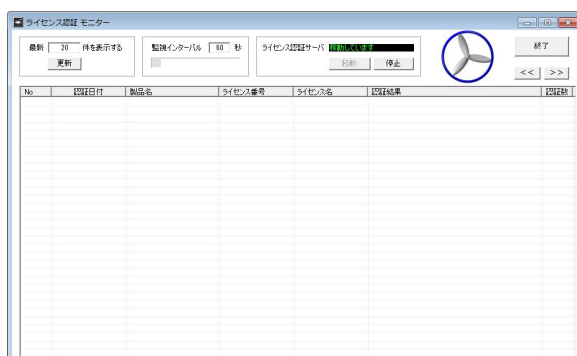


③ ライセンス認証番号入力画面 SETLCS.exe

④ ライセンス判定モジュール

HCPROTEC.dll

(ライセンス認証モニター画面)



☞ ライセンス発行とパッケージングのイメージ

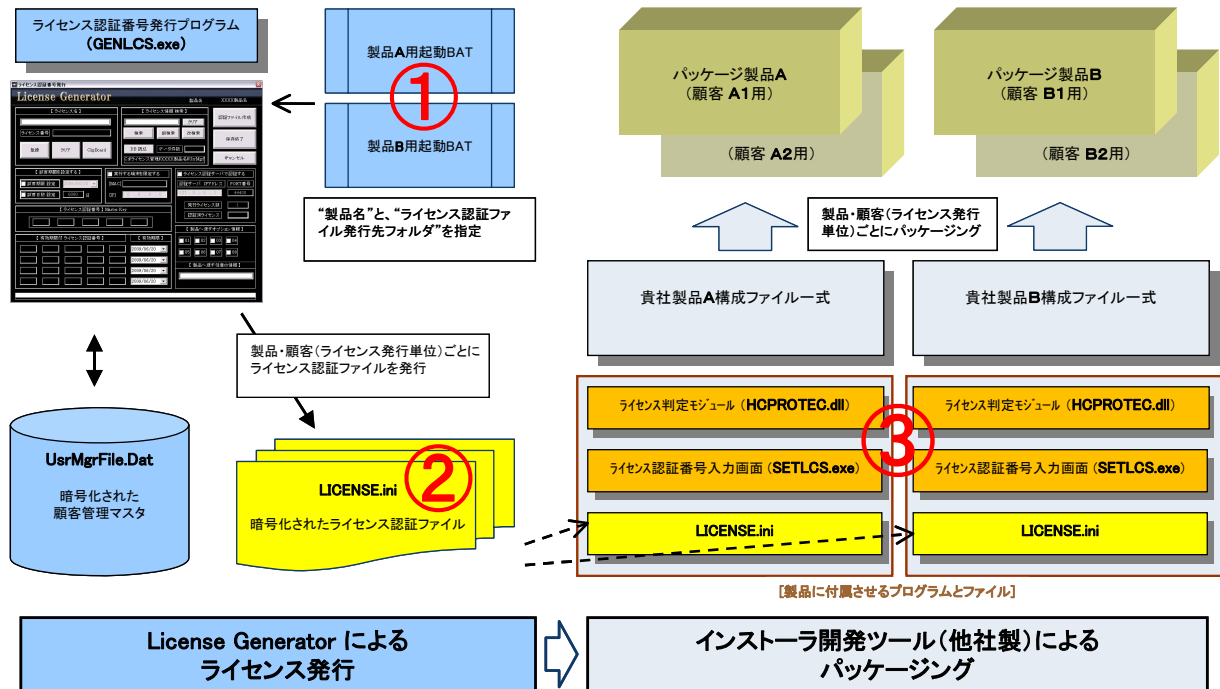
License Generator は、1 ライセンスで複数のパッケージソフトウェア製品のライセンスを管理することができます。

ライセンス発行とパッケージングは、下記の通り容易に行えます。

管理対象となる製品ごとの起動 BAT (バッチファイル) を作成。

ライセンス認証ファイル (LICENSE.ini) を発行。

配布用モジュール (HCPROTEC.dll と、SETLCS.exe) とともに、製品に同梱。



☞ ライセンス認証番号発行画面 (GENLCS.exe) の説明

The screenshot shows the 'License Generator' application window with the following annotated features:

- ライセンス名 (顧客名 + 発行日付など) を登録**: Field for entering the license name.
- 試用期間の有効期限/日数**: Fields for setting the trial period (start/end date and number of days).
- マスター・キー**: Field for entering the master key.
- 最大4つの期限付き認証キー**: Table for setting up to 4 time-limited license keys.
- ステータス表示**: Status display area at the bottom.
- ライセンス情報の検索**: Search function for existing licenses in the database.
- 端末限定条件**: Fields for setting terminal restrictions like IP/MAC address.
- インターネット認証の条件設定と認証状況の確認**: Fields for setting internet authentication conditions and checking status.
- オプション情報**: Fields for setting optional information for the application.

License Generator を使ってみましょう

1. インストール/アンインストール

- 1.1-1. ライセンスジェネレータのインストール
- 1.1-2. アクティベーションサーバのインストール
- 1.1-3. デフォルトのフォルダ構成とユーザー定義ファイルの配置
- 1.1-4. 設定
- 1.1-5. アンインストール

1.1-1. ライセンスジェネレータのインストール

インストールパッケージの内容

| 名前 | 更新日時 | 種類 | サイズ |
|------------------------|------|--|-----|
| ACTSRV | | ⇒ アクティベーションサーバ関連フォルダ | |
| EXAMPLE | | ⇒ サンプルプログラム格納フォルダ (C#.NET, Delphi, VB.NET, VC.NET 開発環境別) | |
| LISGEN | | ⇒ ライセンスジェネレータ関連フォルダ | |
| UNSETREL | | ⇒ UNSETRELEXe 格納フォルダ (詳しくはライセンスジェネレータ開発マニュアルをご参照ください) | |
| AUTORUN.INF | | | |
| MAINMENU.exe | | | |
| README.pdf | | ⇒ 本書 | |
| ライセンスジェネレータ運用マニュアル.pdf | | | |
| ライセンスジェネレータ開発マニュアル.pdf | | | |

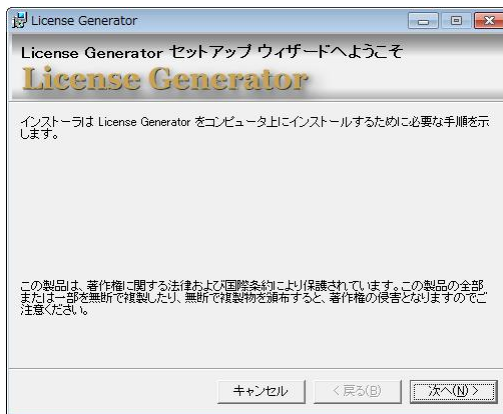
- ① MAINMENU.exe をダブルクリックします。
(インストール用 CD-R メディアの場合は、ドライブに挿入すれば自動実行します)
- ② セキュリティの警告が表示された場合は[実行]をクリックします。



- ③ [ライセンスジェネレータの導入]をクリックします。

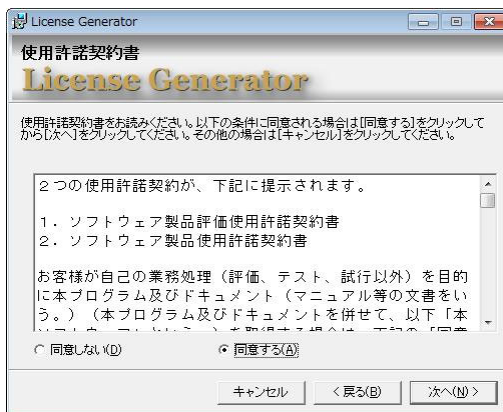


④ [次へ]をクリックします。



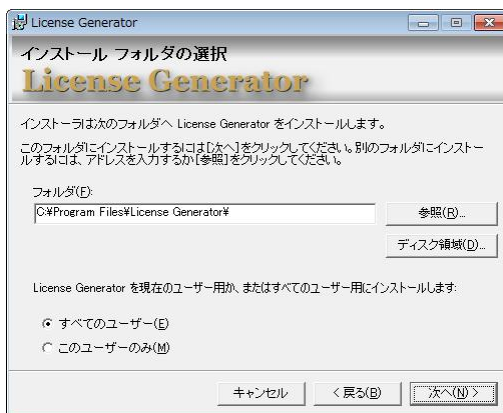
⑤ 使用許諾契約書を最後までお読みください。[同意する]にチェックします。

⑥ [次へ]をクリックします。

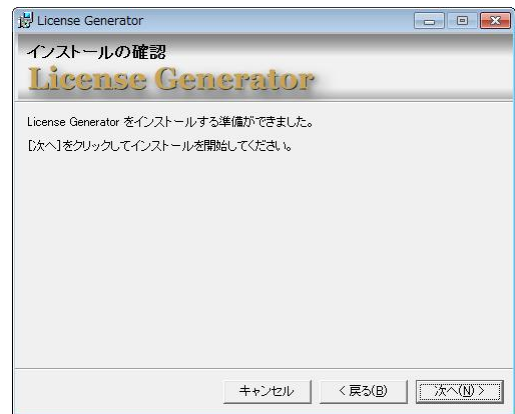


【重要】 試用版 License Generator では、インストールフォルダをデフォルトのままにしてください。

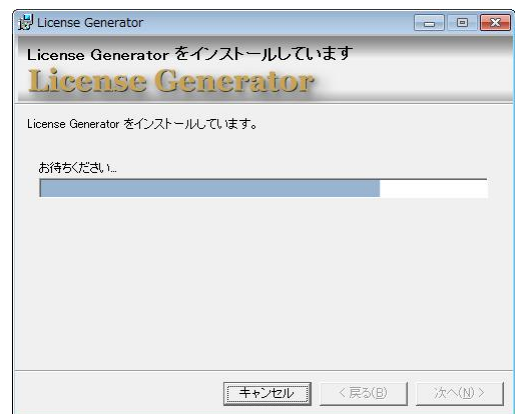
⑦ [次へ]をクリックします。



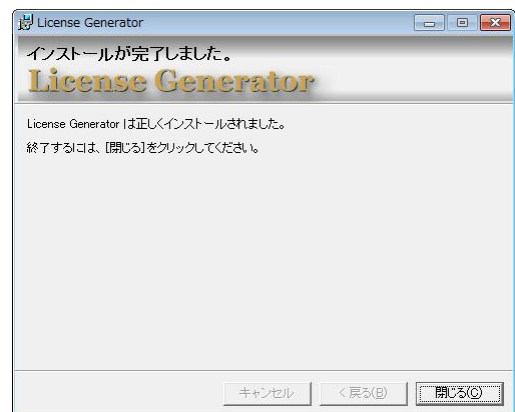
⑧ [次へ]をクリックします。



⑨ インストールが終了するまでしばらくお待ちください。



⑩ [閉じる]をクリックします。



続いて、アクティベーションサーバをインストールします。
(インターネット経由で認証をする場合のみ必要です)

1.-2. アクティベーションサーバのインストール【インターネット経由で認証をする場合のみ必要】

アクティベーションサーバとライセンスジェネレータは、それぞれ別の PC にインストールすることもできます。

- ① [アクティベーションサーバの導入]をクリックします。



- ② [次へ]をクリックします。



- ③ 使用許諾契約書を最後までお読みください。[同意する]にチェック します。

- ④ [次へ]をクリックします。



- 【重要】試用版 Activation Server では、インストールフォルダをデフォルトのままにしてください。

- ⑤ [次へ]をクリックします。



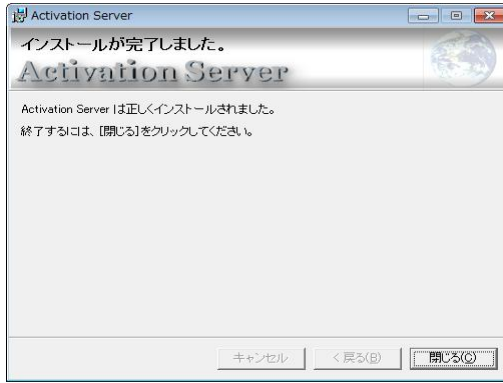
- ⑥ [次へ]をクリックします。



- ⑦ インストールが終了するまでしばらくお待ちください。



⑧ [閉じる]をクリックします。



⑨ [終了]をクリックします。



以上でインストールは終了です。

1.3. デフォルトのフォルダ構成とユーザー定義ファイルの配置

各ファイルの説明は < > 内の参照先をご覧ください。

| | | | |
|-----|---|-----------------------------|---|
| C:¥ | Program Files フォルダ | Activation Server フォルダ | [ENVIRON.DEF] <1.-4.-3.> |
| | | License Generator フォルダ | [ENVIRON.DEF] [ライセンスジェネレータ起動.BAT] <1.-4.-2.> [LOGIN.DEF] <5.-1.> |
| | | | インストール時に生成 |
| | ライセンス管理フォルダ | [LicenseAttest.Log] <4.-4.> | ライセンス認証サーバプログラムでイベントの初回発生時に生成 |
| | ※ ライセンス管理 DB (UsrMgrFile.Dat と UsrMgrFile.Idx) の格納先 | A 製品名フォルダ | [UsrMgrFile.Dat] <1.-4.-3.> <4.> ライセンス情報の初回保存時に生成 [UsrMgrFile.Idx] <1.-4.-3.> <4.-4.> インターネット認証の初回成功時に生成 |
| | | B 製品名フォルダ | [UsrMgrFile.Dat] [UsrMgrFile.Idx] |
| | | ... | |
| | ライセンス発行フォルダ | A 製品名フォルダ | A1 ライセンス番号フォルダ [LICENSE.ini] <4.> A2 ライセンス番号フォルダ " |
| | ※ ライセンス認証ファイル (LICENSE.ini) の発行先 | ... | |
| | | B 製品名フォルダ | B1 ライセンス番号フォルダ " B2 ライセンス番号フォルダ " |
| | | ... | |
| | | ... | ライセンス認証ファイルの初回発行時に生成 |
| | | ... | ライセンス認証ファイルの発行の度に生成 |

1-4. 設定

1-4-1. ライセンス管理フォルダとライセンス発行フォルダの配置

1-4-2. ライセンスジェネレータの設定

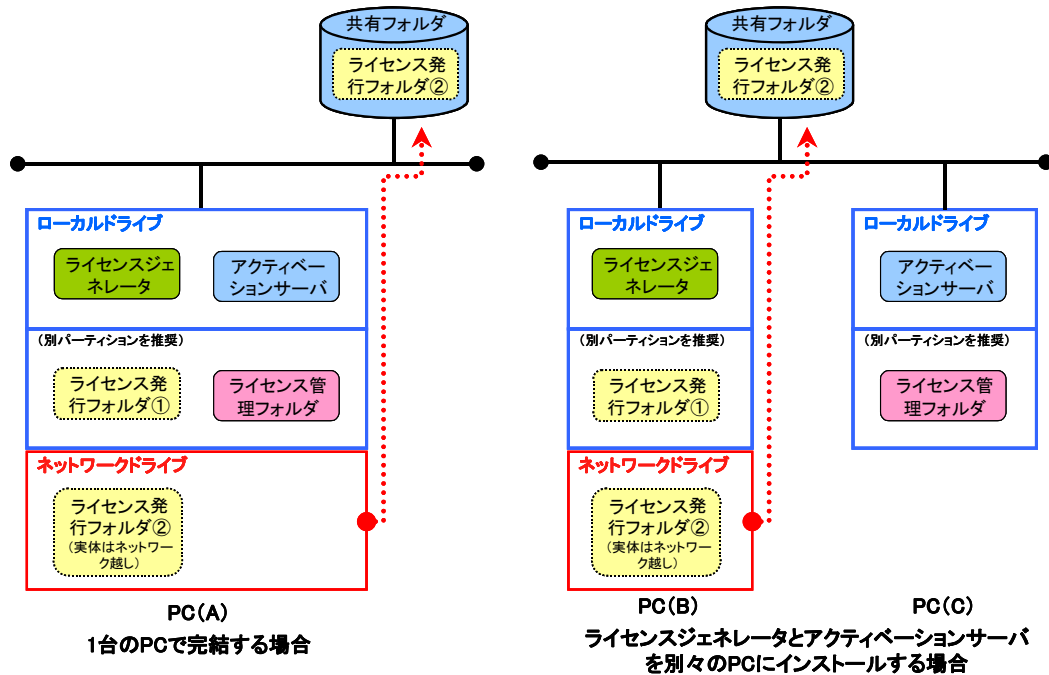
1-4-3. アクティベーションサーバの設定【インターネット経由で認証をする場合のみ必要】

1-4-1. ライセンス管理フォルダとライセンス発行フォルダの配置

本番環境で、ライセンス管理フォルダとライセンス発行フォルダをどのように配置すれば良いのかを示します。配置場所の指定方法は、次項〈1-4-2. と 1-4-3.〉をご参照ください。

- 【重要】** 1. ライセンス管理フォルダは、アクティベーションサーバのローカルドライブに設置してください。
2. ライセンス発行フォルダは、下記の内いずれかに設置してください。

- ・ローカルドライブ（プログラムとは別のパーティションを推奨）： 下図のライセンス発行フォルダ
- ・ネットワークドライブ（別PCの共有フォルダ）： // ライセンス発行フォルダ



1-4-2. ライセンスジェネレータの設定

ライセンスジェネレータのインストールフォルダ(デフォルトは C:\Program Files\License Generator)に、ライセンスジェネレータ起動.BAT を格納しています。サンプルの起動バッチファイルです。

実際の運用では、管理対象とする製品ごとに起動バッチファイルを作成してください。

起動バッチファイルの書式例：ライセンスジェネレータ起動.BAT

GENLCS.exe (ライセンス認証番号発行画面) の引数に、下記の二点を記述します。

1. 管理対象の製品名 (30Byte 以内で記述してください)
2. ライセンス発行フォルダ (ライセンス認証ファイル LICENSE.ini を発行するフォルダ) のパス

【重要】 ローカルドライブまたはネットワークドライブにあるフォルダが指定可能です。

```
@ECHO OFF
START GENLCS.exe "HELLOWORLD" "C:¥ライセンス発行" ← 引数をダブルクォーテーションで囲みます
```

➢ 上記で指定した発行先フォルダが存在しない時、バッチファイルの初回実行時にフォルダが自動生成されます。

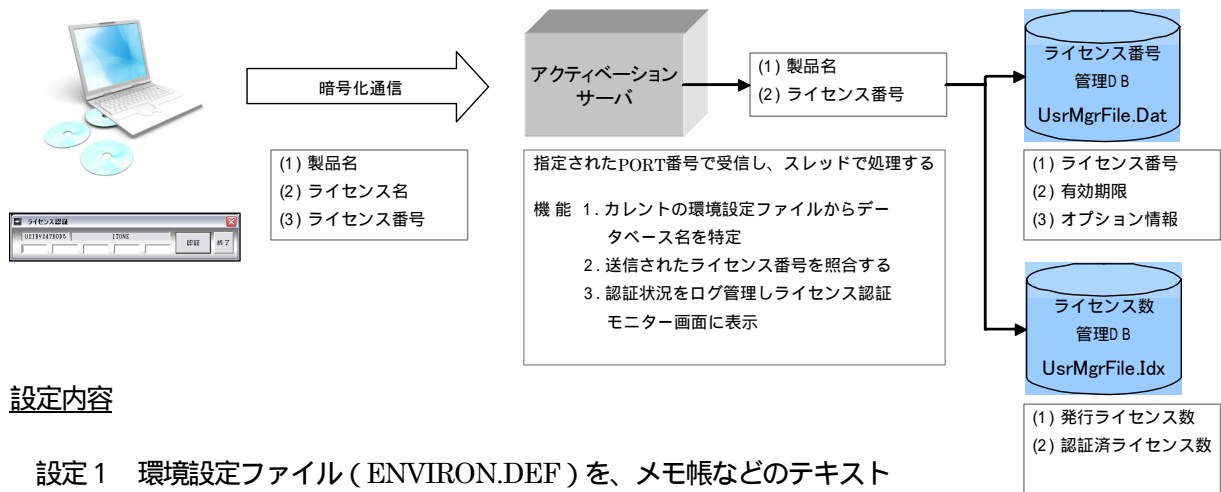
➢ 本例では、下記の場所に LICENSE.ini が発行されます。

C:¥ライセンス発行¥HELLOWORLD¥[ライセンス番号]¥LICENSE.ini

ライセンス名の登録時に生成
⇒ <4.ライセンス発行手順の例>をご参照ください

1.-4.-3. アクティベーションサーバの設定【インターネット経由で認証をする場合のみ必要】

インターネット認証の概要



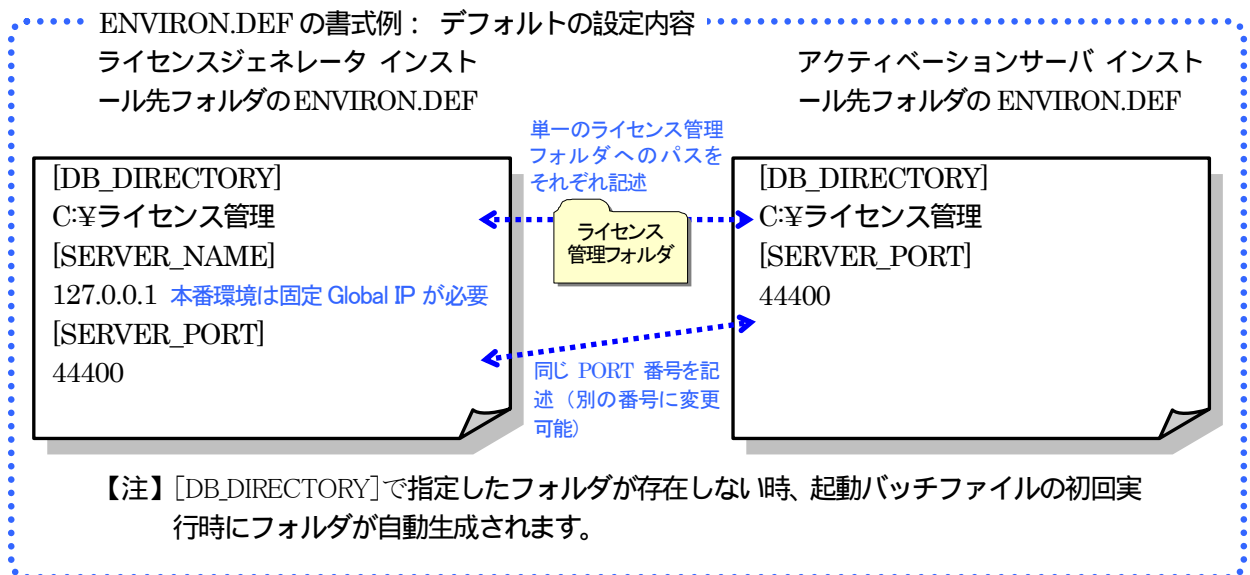
設定内容

設定1 環境設定ファイル (ENVIRON.DEF) を、メモ帳などのテキストエディタで開きます。

- ライセンス管理フォルダのパスを[DB_DIRECTORY]に記述します。
【重要】ローカルドライブまたはネットワークドライブにあるフォルダが指定可能です。
- アクティベーションサーバのIPアドレスを[SERVER_NAME]に記述します。
- 必要であれば[SERVER_PORT]のPORT番号を変更してください。

デフォルトはループバックアドレス (127.0.0.1) と 44400 番 PORT になっています。

【重要】本番環境ではアクティベーションサーバ用に固定グローバルIPアドレスが必要です。



設定2 試用のため localhost でお使いの際は、本項 (設定2) は不要です。

前項 (設定1) で指定した IP アドレス / PORT 番号への通信を、アクティベーションサーバへマッピングするように、ルータを設定してください。

1.-5. アンインストール

XP 以前： [コントロールパネル] - [プログラムの追加と削除] からアンインストールしてください。

Vista 以降： [コントロールパネル] - [プログラムと機能] からアンインストールしてください。

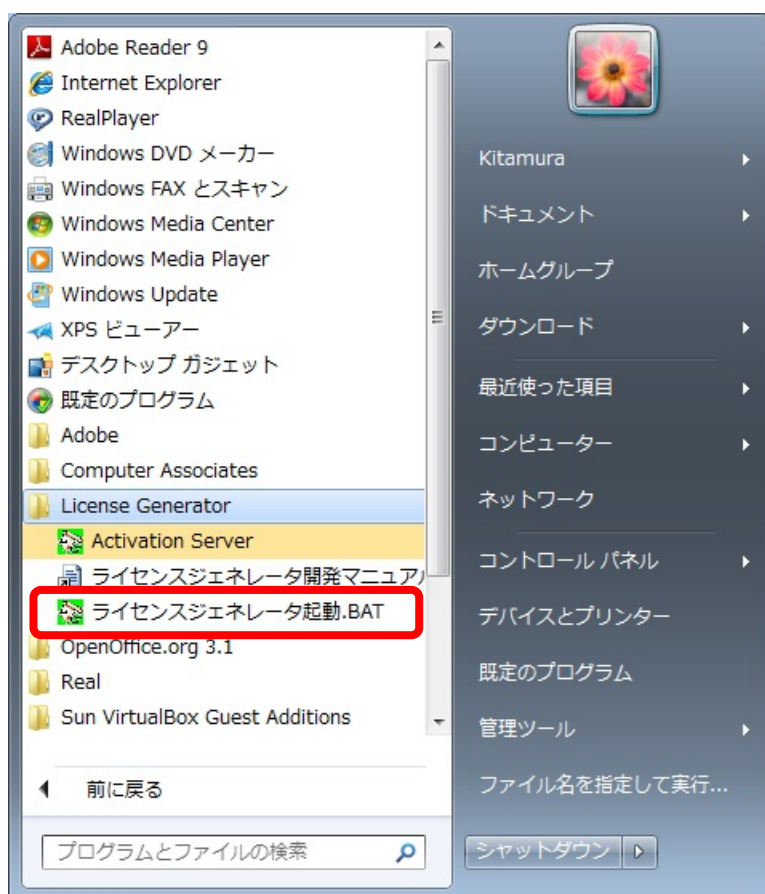
2. プログラムの起動

- 2-1. ライセンスジェネレータの起動
- 2-2. アクティベーションサーバの起動

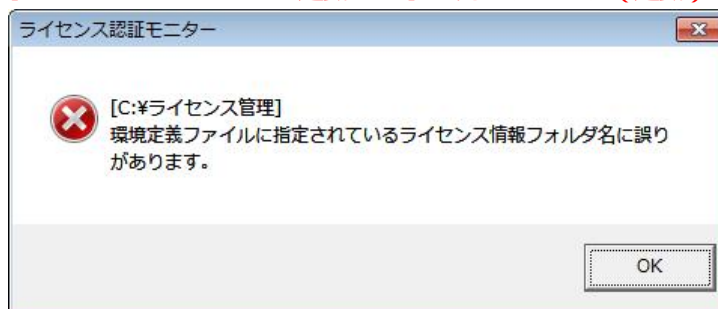
2-1. ライセンスジェネレータの起動

〈1.-4.-2. ライセンスジェネレータの設定〉で作成した、起動バッチファイルを実行します。
以降、本書では管理対象とする製品を「XXXX 製品名」と仮定して説明しています。

【補足】[スタート]メニュー-[すべてのプログラム]-[License Generator]にある[ライセンスジェネレータ
起動.BAT]は、サンプルの起動バッチファイルです。
実際に運用をする際には、管理対象とする製品ごとに起動バッチファイルを作成してください。



【注】インストール後の初回起動時に、[Activation Server] を先にクリック (起動) すると
エラーメッセージが出ます。
[ライセンスジェネレータ起動.BAT] を先にクリック (起動) してください。



ログイン名/パスワードは root / root または administrator / administrator を入力します。(デフォルトのアカウント情報)

アカウント情報を変更するには<5.1.ログイン名/パスワードを変更・追加する>をご参照ください。

[ログイン]をクリックします。



ライセンス認証番号発行画面 (GENLCS.exe) が起動します。具体的な操作方法は<4. ライセンス発行手順の例>をご覧ください。

Clip Board【補足1】
ライセンス認証番号の内容をクリップボードに取り込みます。

ライセンス情報の検索【補足2】
キーワード検索し、結果を左の【ライセンス名】欄に表示します。

画面表示のクリア
DBのライセンス情報データは削除しません。

端末の限定やインターネット認証をする際にチェック
条件の併用が可能。

試用期限と試用日数を設定できます

使用期限の無いマスターキーと、最大4つの期限付き延長用キー

現在読んでいるDBが管理対象とする製品名を表示

別のDBファイルの読み込み
製品名が同じ場合にのみ有効。複数の製品バージョンがあり、旧バージョンを別DBに分割するようなケースで使用可能。

キャンセル
更新情報を保存せずに終了します。

詳細は開発マニュアルをご参照ください

- > GetOption
- > GetInformation

ステータス表示

顧客情報(株式会社ABC 090621)の登録が完了しました。

【補足1】 [Clip Board]で取得する情報

ライセンス名
任意で入力した項目
“顧客名+発行日付”
など

ライセンス番号
ライセンス名に対応した一意の番号

試用期間の設定状況
任意で入力した項目
上段 - 試用設定の種別
下段 - 期限または日数

Master Key
期限なしの認証番号

最大4つの有効期限付きライセンス認証番号

株 式 会 社 DEF 090621; PATOYNCO1WL; 1
C6BR-FW27-5XV4-2FPD-6XJ3; 20100930
5NVR-H96R-65MC-XHHP-TME4, 20110930
XMQR-83JX-XQXF-T9FR-LLG4, 20120930
J9GZ-WU4L-B438-X5KQ-5JFF, 20130930
52ZM-ZEPP-E5BX-TXVB-M3NM, 20140930

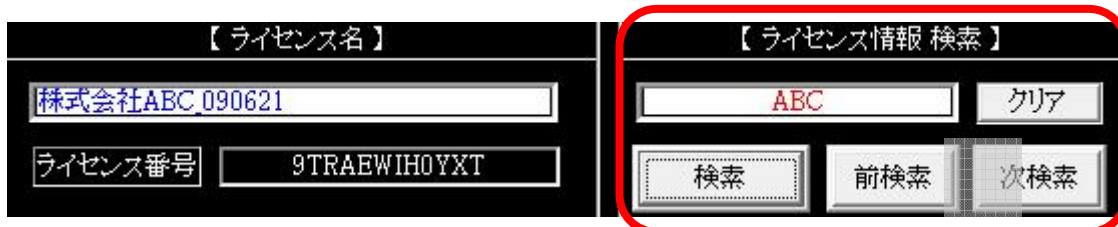
〔 値: 0 (試用期間設定なし)
" N/A
" 1 (試用期限設定あり)
" YYYYMMDD
" 2 (試用日数設定あり)
" DDDDDDDD (8桁)
(例) 0000060 = 60日

【補足2】 ライセンス情報の検索

下記の項目を対象に文字列検索を行います。

- ライセンス名
- ライセンス番号

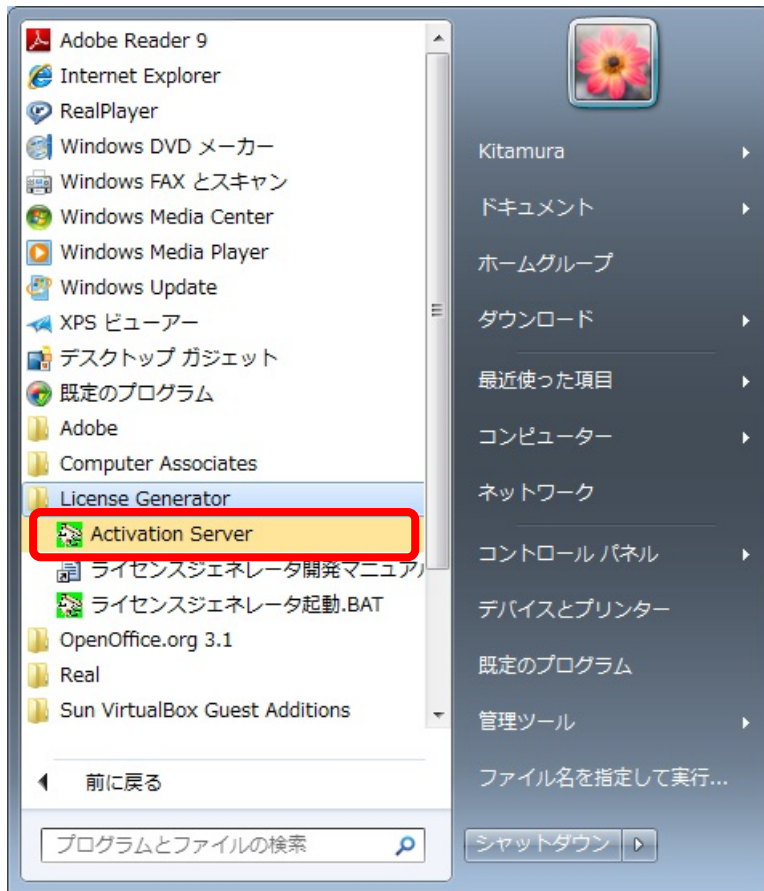
既に登録したライセンス情報を DB から検索することができます。



- ① 検索したい文字列を入力します。
(大文字/小文字、全角/半角が区別されます)
- ② [検索]をクリックします。
検索結果(該当するライセンス情報)が、左の【ライセンス名】欄に表示されます。
[次検索]で次の検索結果を表示します。
[前検索]で前の検索結果に遡ります。
[クリア]をクリックすると、表示中のライセンス情報をすべてクリアします。
(ライセンス認証番号発行画面 GENLCS.exe 起動時の表示状態に戻ります)
DB からライセンス情報のデータを消去するわけではありません。

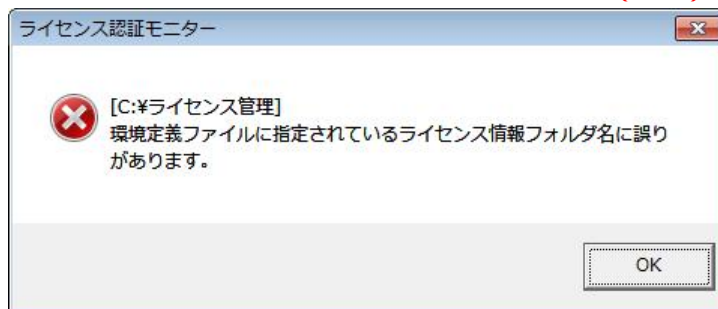
2.-2. アクティベーションサーバの起動【インターネット経由で認証をする場合のみ必要】

[スタート]－[すべてのプログラム]－[License Generator]とたどり、[Activation Server]をクリックします。



【注1】再掲：インストール後の初回起動時に、[Activation Server]を先にクリック（起動）するとエラーメッセージが出ます。

ライセンスジェネレータ起動.BAT を先にクリック（起動）してください。



【注2】ライセンス番号管理 DB (UsrMgrFile.Dat) の生成前に [Activation Server] を起動すると、ライセンス認証モニター画面が表示されないことがあります。

その場合は、ライセンス番号管理 DB を先に生成してください。

ライセンス番号管理 DB は、ライセンス情報の初回保存時に生成されます。

- ライセンス情報の入力および保存方法は<4. ライセンス発行手順の例>をご参照ください。
- ライセンス番号管理 DB の説明は<1.-4. アクティベーションサーバの設定>をご参照ください。

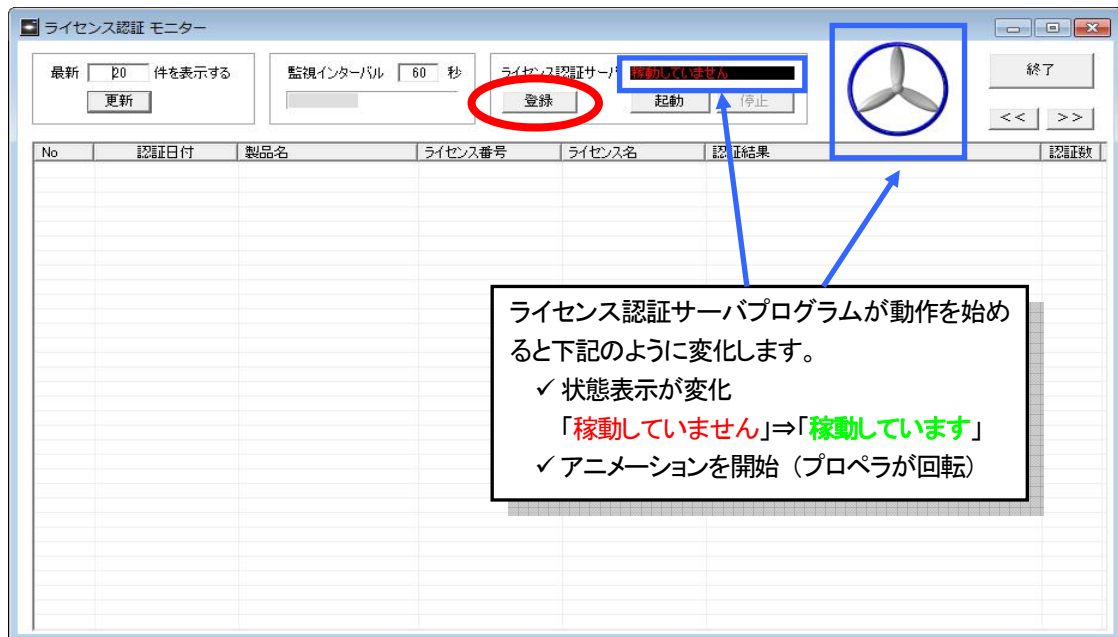
ライセンス認証モニター画面 (ATMONITOR.exe) が表示されます。

【重要】 初回起動時のみ [登録] をクリックしてください。

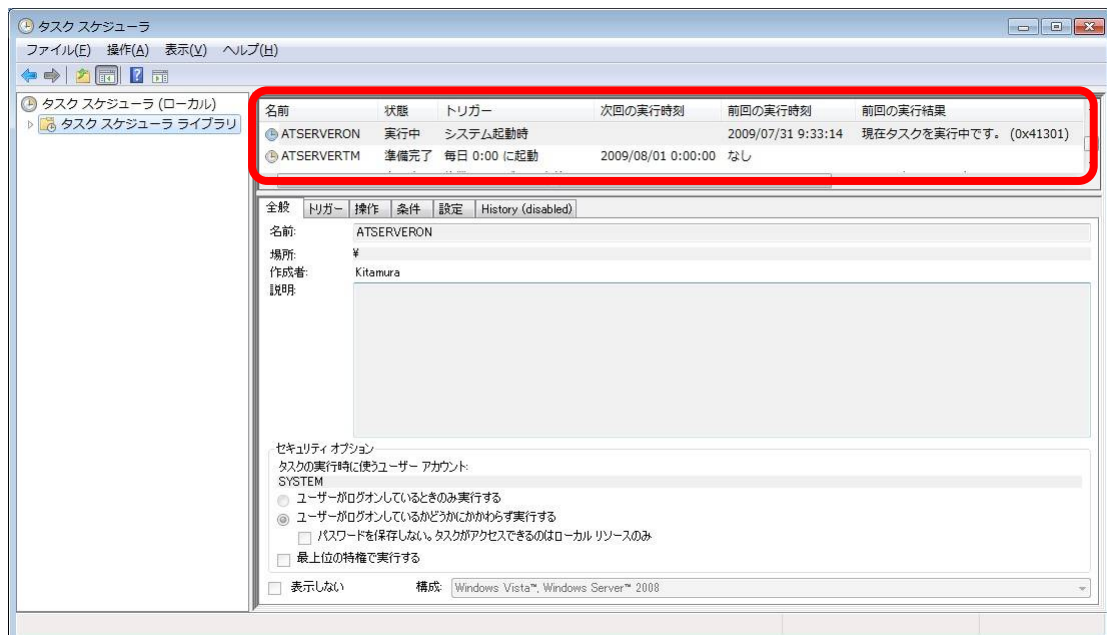
- ➡ ライセンス認証サーバプログラム (ATSERVER.exe) の自動起動タスクが登録されます。
- ➡ [登録] ボタンが表示されなくなります。
- ➡ ライセンス認証サーバプログラムが動作を始めます。

以降、ライセンス認証サーバプログラムは常時、動作を続けます。

- ライセンス認証モニター画面は常に表示しておく必要はありません。 [終了] をクリックしても、ライセンス認証サーバプログラムはバックグラウンドで動作しています。
- 意図的にライセンス認証モニター画面の [停止] をクリックしない限り、ライセンス認証サーバプログラムは動作を続けます。
- 停止させた場合、 [起動] をクリックすれば再び動作を開始します。

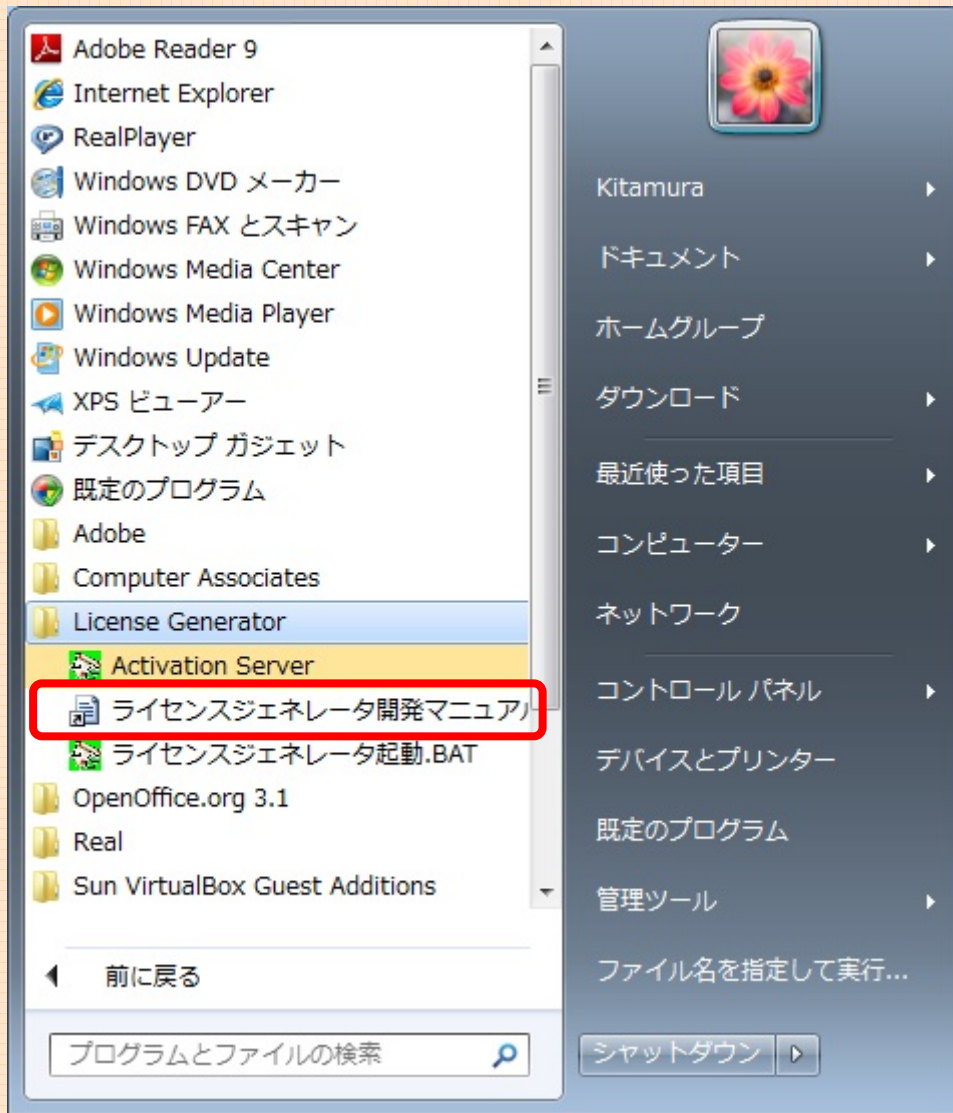


タスクスケジューラの状況：ライセンス認証サーバプログラムを自動実行するようになっています
自動実行のタイミングは、“システム起動時”と“毎日午前0時”です。



3. パッケージソフトウェア製品へのライセンスプロテクト機能の実装方法について

実装方法は、下記のライセンスジェネレータ開発マニュアルをご覧ください。



【重要】 試用版 License Generator の制限事項（製品版では、本項は該当しません）

- 試用の開始日から起算し 45 日を越えると認証番号の入力が必須となります。
- 同一 PC には 1 回のみインストールすることができます。（複数回インストール不可）

4. ライセンス発行手順の例

- 4-1. 試用版のライセンスを発行する
- 4-2. 有効期限を設定する
- 4-3. インストール先の端末を限定する
- 4-4. インターネット経由でライセンス認証を行う

4-1. 試用版のライセンスを発行する

[概要] 試用版を提供し、見込み客を新規開拓するようなケース

- ✦ 試用期限付き（例では2009/9/30まで）のライセンスを発行する。
または、試用日数設定（試用開始から60日間など）のライセンスを発行する。
- ✦ 成約した場合 Master Key（期限なしのライセンス認証番号）を通知。

ライセンス発行（パッケージソフトウェア製品の開発元において）

ライセンス認証番号発行

License Generator

製品名 XXXX製品

【ライセンス名】 株式会社ABC 090621

【ライセンス情報 検索】

検索 前検索 次検索

DB 読込 データ件数 2

C:\ライセンス管理\XXXX製品名\UsrMgr

登録 ClipBoard

【試用期間を設定する】

試用期限 設定 2009/09/30

試用日数 設定 0000 日

実行する端末を限定する

【ライセンス認証番号】 Master Key

9TPM DSVM 8QDC NW85 9KXU

【有効期限付 ライセンス認証番号】

| 認証番号 | 有効期限 |
|--------------------------|------------|
| QFJQ GEXL 59H5 8KEP T65Y | 2009/06/21 |
| 4864 YQNX 4JHX 26DX 5SU8 | 2009/06/21 |
| Z7NM TYJA KRJD WESB VF6E | 2009/06/21 |
| 6MR9 W5LL QGUS BAPL 2ARQ | 2009/06/21 |

【製品へ渡すオプション情報】

01 02 03 04

05 06 07 08

【製品へ渡す任意の情報】

ライセンス認証ファイルを作成しました。

ライセンス名を入力します。顧客名+ライセンス発行日付などにするのが有効でしょう。

(例) 株式会社ABC_090621 (最大58 Byteまで記述することが可能です)

[登録]をクリック。ライセンス名に対応した一意のライセンス番号を生成し、表示します。

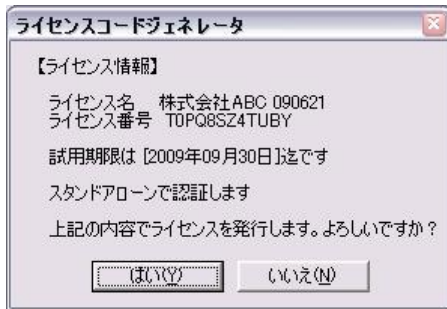
【重要】保存終了をするまでは、ライセンス番号管理DB(UsrMgrFile.Dat)に反映されません。

[試用期限 設定]にチェック☑し、日付を入力します。

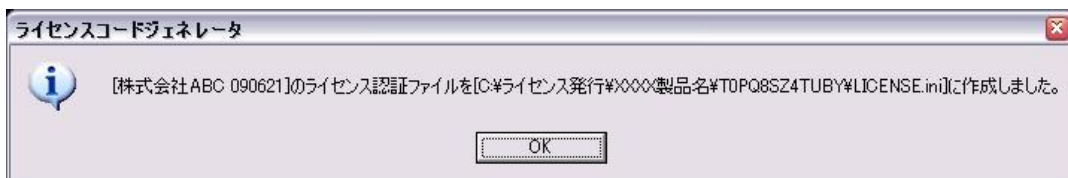
(例) 2009/09/30 <半角数字を直接入力、またはプルダウンしたカレンダーから選択>

[認証ファイル作成]をクリックします。

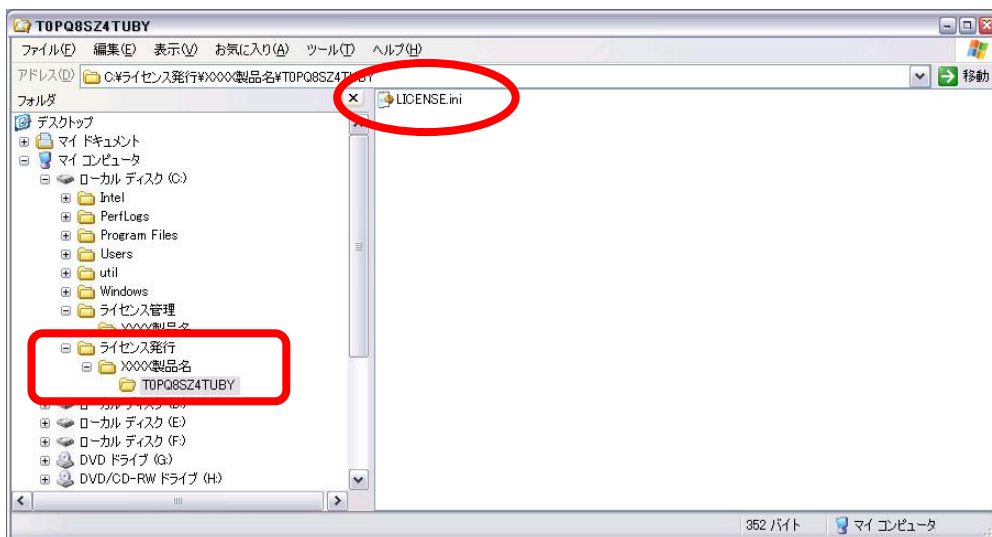
確認のうえ [はい] をクリックしてください。



[OK] をクリックします。



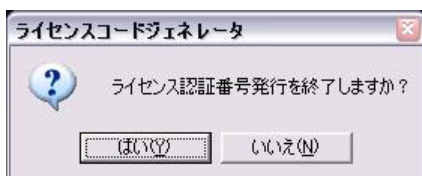
下記のフォルダにライセンス認証ファイル (LICENSE.ini) が生成されます。
(起動 BAT で指定したフォルダに、製品名別・ライセンス番号別のフォルダが自動生成されます)
C:\#ライセンス発行¥XXXX¥製品名¥[ライセンス番号]¥



配布モジュール (HCPROTEC.dll と、SETLCS.exe) と合わせた三点をソフトウェア製品にパッケージングしてください。

[保存終了] をクリックします。

[はい] をクリックします。 **ライセンス番号管理 DB (UsrMgrFile.Dat) に反映されます。**

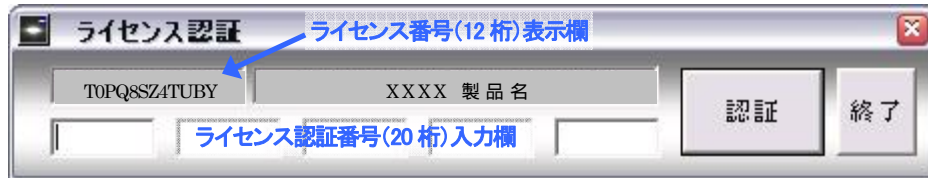


ライセンス認証 (パッケージソフトウェア製品の使用者において)

上記の例では、2009/09/30 以前は使用期限内なのでライセンス認証の必要がありません。

2009/10/1 以降はライセンス認証番号入力画面 (SETLCS.exe) により認証番号の入力を求められます。

パッケージソフトウェア製品の起動ができません。 正規ライセンスの購入が必須となります。

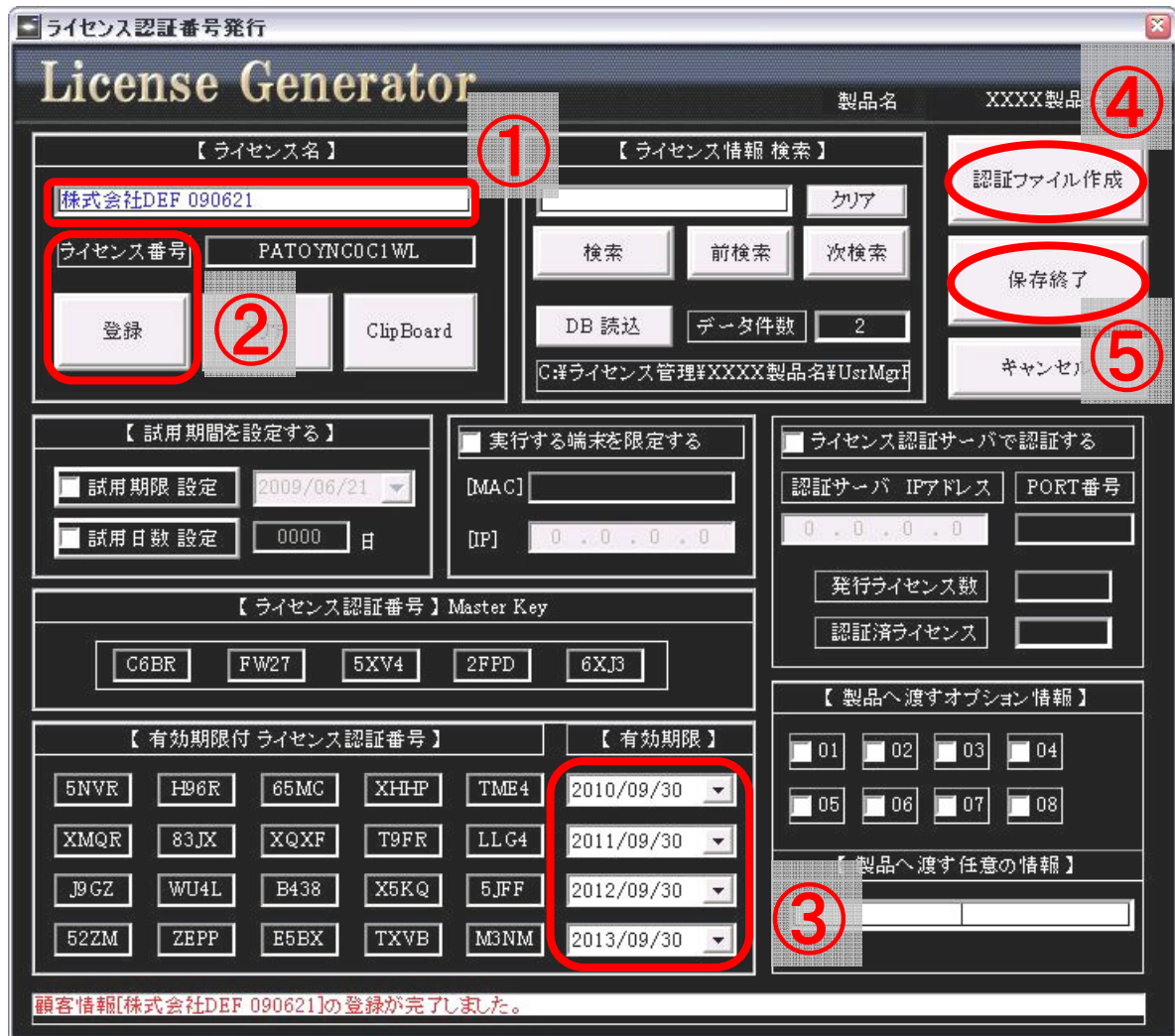


4-2. 有効期限を設定する

[概要] 例えば年次契約で使用権を販売したいケース。延長用の認証番号により3回迄の延長が可能(年次であれば合計4年分)。ただし、後述の運用方法では最大4回の延長が可能(同5年分)。途中で「売り切り」に切替えたい時にはMaster Key(期限なしのライセンス認証番号)を通知。

- 下記の例では毎年9/30まで有効な期限付き認証番号を4年分発行する。
- 使用権のスタート時(1年目)には、1番目の認証番号を通知する。
- 2年目以降の契約延長時には、2年目以降の認証番号を通知する。

ライセンス発行(パッケージソフトウェア製品の開発元において)



ライセンス名を入力します。顧客名+ライセンス発行日付などにするのが有効でしょう。

(例) 株式会社 DEF_090621 (最大 58 Byte まで記述することが可能です)

[登録] をクリック。ライセンス名に対応した一意のライセンス番号を生成し、表示します。

【重要】 保存終了をするまでは、ライセンス番号管理 DB (UsrMgrFile.Dat) に反映されません。

有効期限に日付を入力します。 <半角数字を直接入力、またはプルダウンしたカレンダーから選択>

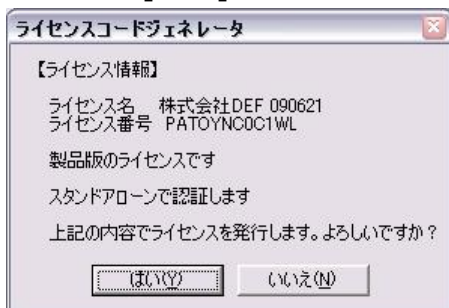
(例) 2009/10/01 を使用開始日として想定したケースです。

年次契約であれば 1 年ごとに有効期限を設定しておきます。

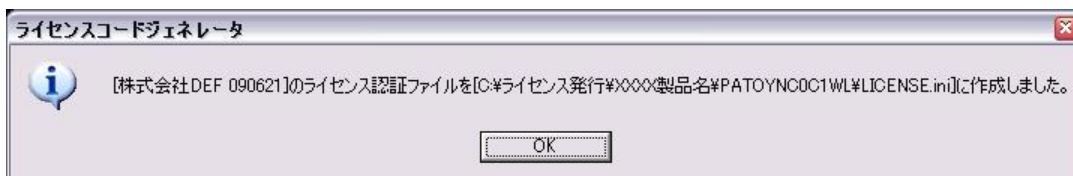
2010/09/30、2011/09/30、2012/09/30、2013/09/30

[認証ファイル作成] をクリックします。

確認のうえ [はい] をクリックしてください。



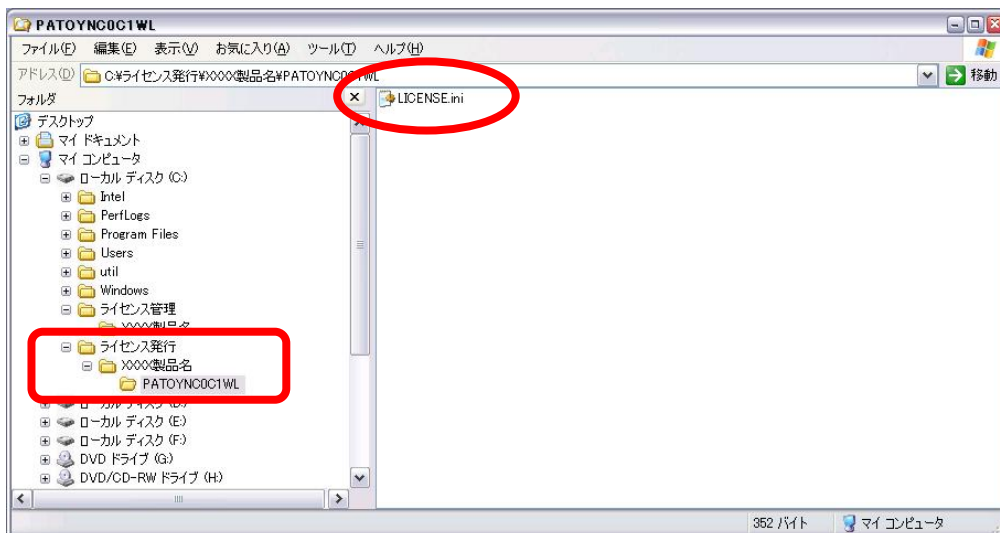
[OK] をクリックします。



下記のフォルダにライセンス認証ファイル (LICENSE.ini) が生成されます。

(起動 BAT で指定したフォルダに、製品名別・ライセンス番号別のフォルダが自動生成されます)

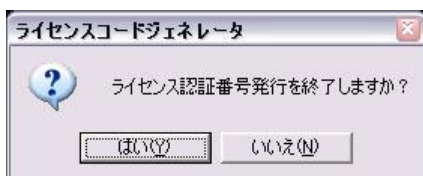
C:*¥ライセンス発行¥XXXX¥製品名¥[ライセンス番号]¥



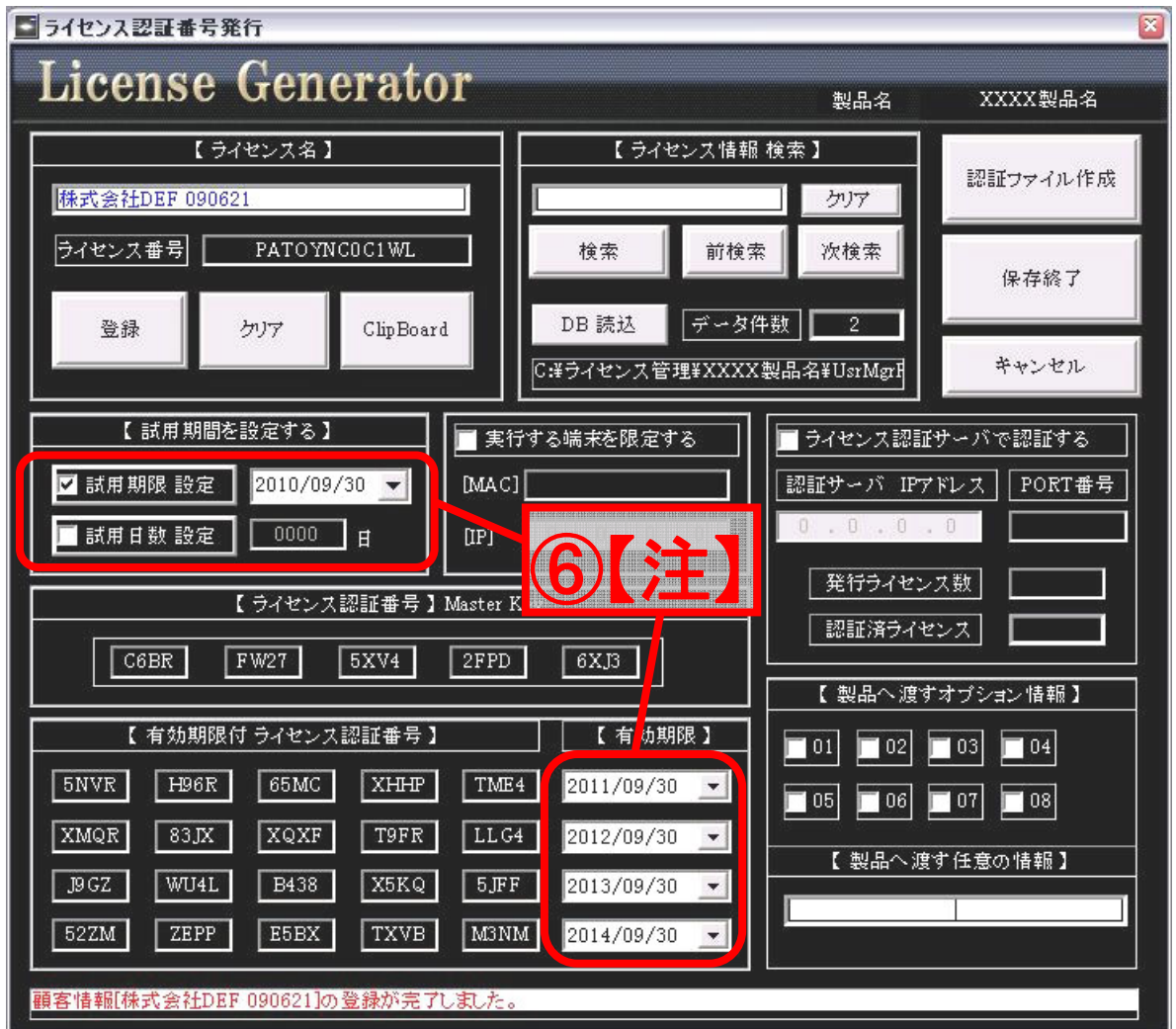
配布モジュール (HCPROTEC.dll と、SETLCS.exe) と合わせた三点をソフトウェア製品にパッケージングしてください。

[保存終了] をクリックします。

[はい] をクリックします。 **ライセンス番号管理 DB (UsrMgrFile.Dat) に反映されます。**

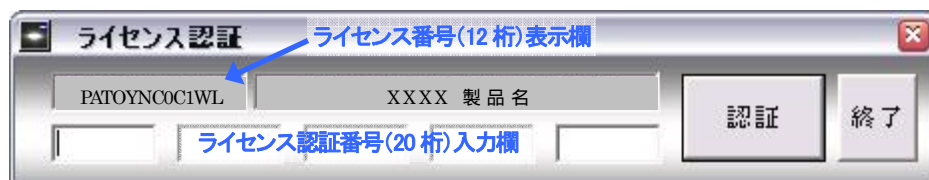


- 【注】 試用期限を、「初回の有効期限付きライセンス」として扱うことも可能です。
 4つの有効期限付き認証番号により最大で4回の延長が可能です。(年次であれば合計5年分)
 (例) 2009/10/01 を使用開始日として想定したケースです。
 2010/09/30 試用期限を適用、2011/09/30、2012/09/30、2013/09/30、2014/09/30



ライセンス認証 (パッケージソフトウェア製品の使用者において)

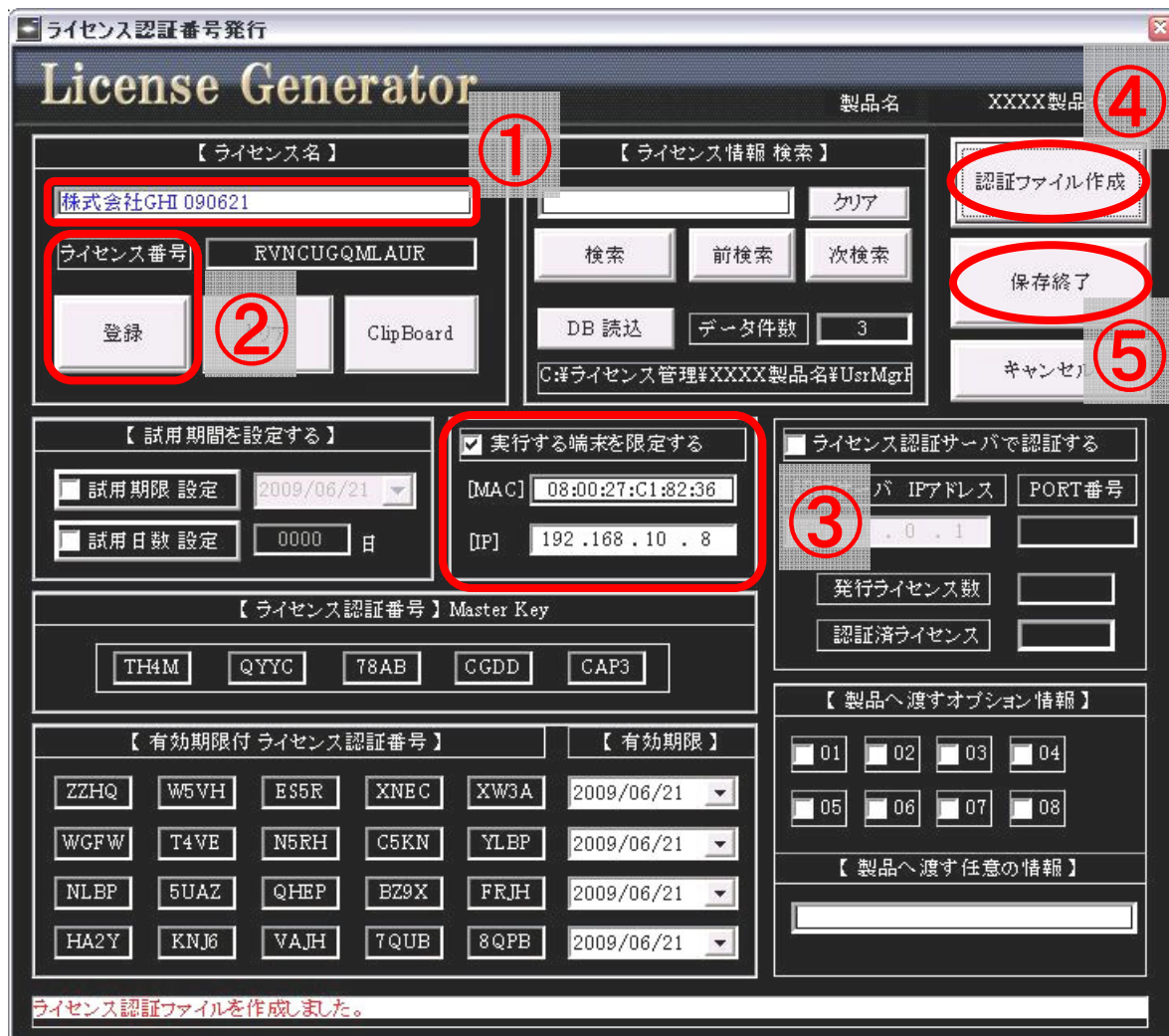
前記 ~ に沿った例では、初回起動時と、2010年~2013年のそれぞれ10/1以降はライセンス認証番号入力画面 (SETLCS.exe) により認証番号の入力を求められます。
 (⑥の例では、試用期限を有効期限として適用しているため、初回のライセンス認証は不要です)
 パッケージソフトウェア製品の起動ができません。 正規ライセンスの購入が必須となります。



4-3. インストール先の端末を限定する

- [概要] 高価なパッケージソフトウェアなど、インストール端末を限定 (ノードロック) したいケース。
- ✚ 事前にインストールマシンのMACアドレス / IPアドレス情報をヒアリングする。
 - ✚ MACアドレス / IPアドレスを指定してライセンスを発行する。

ライセンス発行（パッケージソフトウェア製品の開発元において）



ライセンス名を入力します。顧客名+ライセンス発行日付などにするのが有効でしょう。

（例）株式会社 GHI_090621 （最大 58 Byte まで記述することが可能です）

[登録]をクリック。ライセンス名に対応した一意のライセンス番号を生成し、表示します。

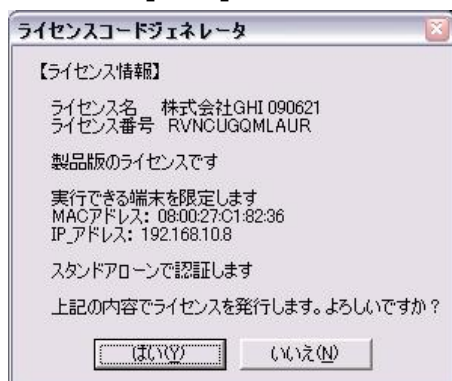
【重要】保存終了をするまでは、ライセンス番号管理 DB (UsrMgrFile.Dat) に反映されません。

[実行する端末を限定する]にチェック☑し、条件を入力。三種類の限定方法があります。

- ◆ MAC アドレスだけで限定 <半角数字(16進)を直接入力>
- ◆ IP アドレスだけで限定 <半角数字を直接入力>
- ◆ 両方で限定 (MAC と IP の両方が正しければプログラムの実行を許可) <両方に入力>

[認証ファイル作成]をクリックします。

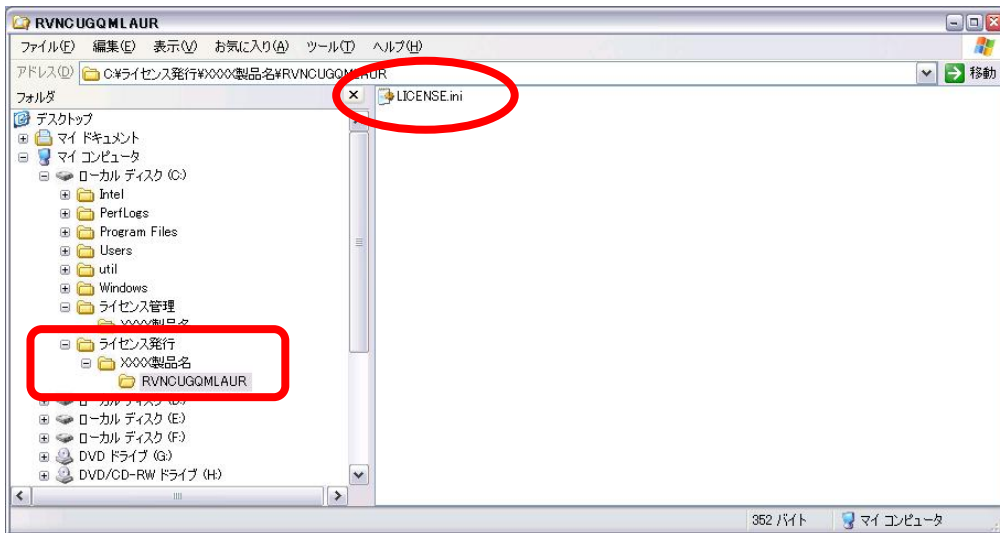
確認のうえ [はい] をクリックしてください。



[OK]をクリックします。



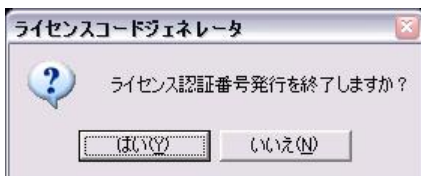
下記のフォルダにライセンス認証ファイル (LICENSE.ini) が生成されます。
(起動 BAT で指定したフォルダに、製品名別・ライセンス番号別のフォルダが自動生成されます)
C:\ライセンス発行\XXXX 製品名\ライセンス番号\



配布モジュール (HCPROTEC.dll と、SETLCS.exe) と合わせた三点をソフトウェア製品にパッケージングしてください。

[保存終了]をクリックします。

[はい]をクリックします。 **ライセンス番号管理 DB (UsrMgrFile.Dat) に反映されます。**

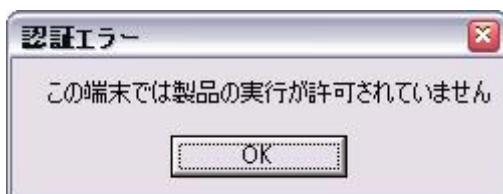


ライセンス認証 (パッケージソフトウェア製品の使用者において)

端末の情報が異なると認証エラーメッセージを表示します。

パッケージソフトウェア製品の起動ができません。 正規ライセンスの購入が必須となります。

使用者はソフトウェアの製造元に照会をしなければなりません。



4-4. インターネット経由でライセンス認証を行う

[概要] 厳重なライセンスプロテクトをしたいケース。不正コピーによる認証番号の重複を監視し、防止することが可能です。

- ✚ 接続先のアクティベーションサーバの情報を確認。(IP アドレスと PORT 番号)
- ✚ 発行ライセンス数を設定。
- ✚ ライセンス認証サーバプログラムがバックグラウンドで動作していることが必要。

ライセンス発行 (パッケージソフトウェア製品の開発元において)

The screenshot shows the 'License Generator' application window. It features several sections: a main input area for license name and number, a search section, a trial period setting section, a MAC/IP address setting section, and a license key management section. Red circles and boxes highlight specific elements: 1. License name input field containing '株式会社JKL_090621'. 2. '登録' (Register) button. 3. MAC and IP address input fields. 4. '製品名' (Product Name) field containing 'XXXX製品' and the '認証ファイル作成' (Create Certificate File) button. 5. '保存終了' (Save Completed) button. 6. A red box around the 'インターネット認証サーバで認証する' (Authenticate on Internet Certificate Server) checkbox and its associated fields (IP address: 127.0.0.1, PORT: 44400, and license count: 1). A text box on the right explains that the '認証済ライセンス' (Authenticated License) value counts towards the total number of licenses and that an error message is sent if the limit is exceeded. A status bar at the bottom indicates 'ライセンス認証ファイルを作成しました。' (Certificate file created).

ライセンス名を入力します。顧客名+ライセンス発行日付などにするのが有効でしょう。

(例) 株式会社 JKL_090621 (最大 58 Byte まで記述することが可能です)

[登録] をクリック。ライセンス名に対応した一意のライセンス番号を生成し、表示します。

【重要】 保存終了をするまでは、ライセンス番号管理 DB (UsrMgrFile.Dat) に反映されません。

[ライセンス認証サーバで認証する] にチェック☑ します。

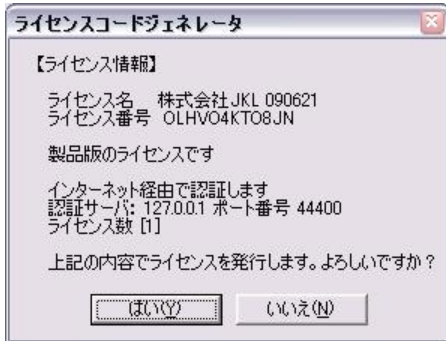
接続先となるアクティベーションサーバの IP アドレス / PORT 番号を確認します。

- 必要であれば変更してください。 <半角数字を直接入力>
- デフォルトで表示される IP アドレス / PORT 番号の指定方法は <1-4. アクティベーションサーバの設定> をご参照ください。

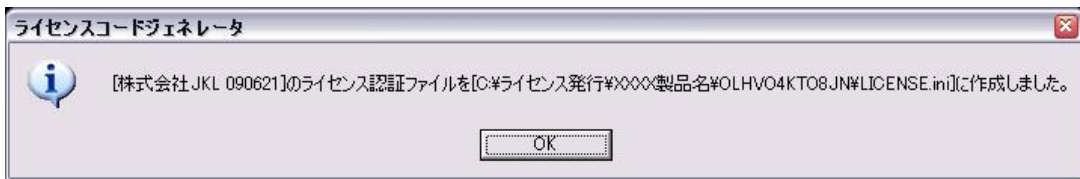
続いて、[発行ライセンス数] を入力します。 <半角数字を直接入力>

[認証ファイル作成]をクリックします。

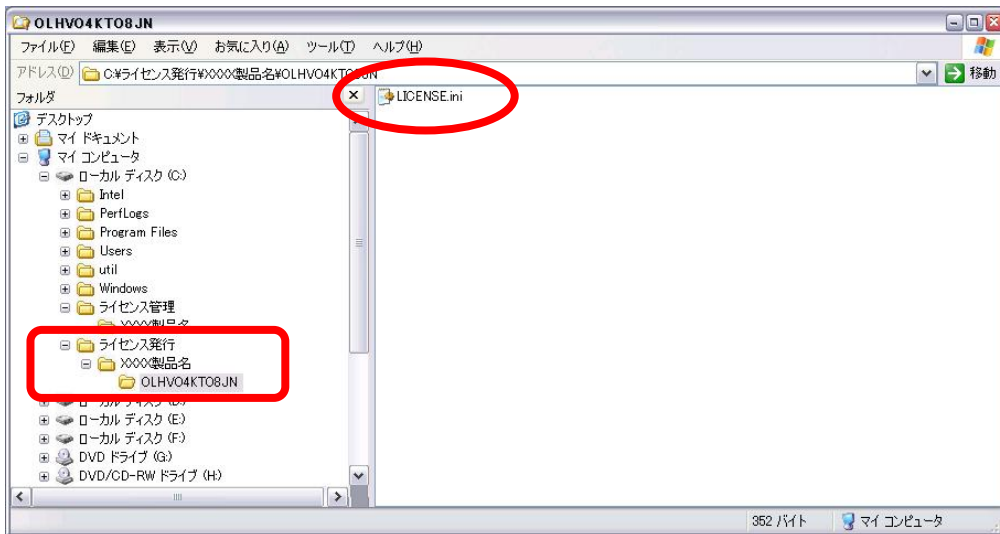
確認のうえ [はい] をクリックしてください。



[OK]をクリックしてください。



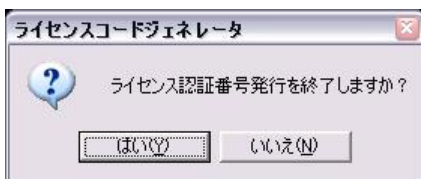
下記のフォルダにライセンス認証ファイル (LICENSE.ini) が生成されます。
(起動 BAT で指定したフォルダに、製品名別・ライセンス番号別のフォルダが自動生成されます)
C:\¥ライセンス発行¥XXXX¥製品名¥[ライセンス番号]¥



配布モジュール (HCPROTEC.dll と、 SETLCS.exe) と合わせた三点をソフトウェア製品にパッケージングしてください。

[保存終了]をクリックします。

[はい] をクリックします。 **ライセンス番号管理 DB (UsrMgrFile.Dat) に反映されます。**

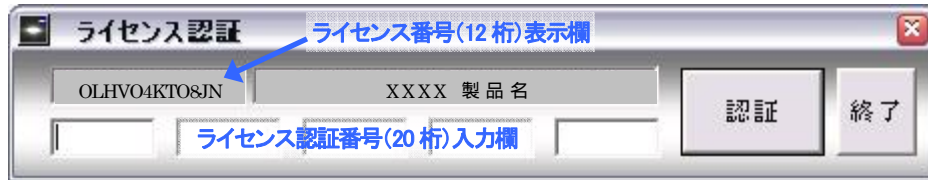


【補足】 ライセンス認証サーバプログラムが起動していない場合は起動させてください。
起動方法は<2.-2. アクティベーションサーバの起動>をご参照ください

ライセンス認証 (パッケージソフトウェア製品の使用者において)

インターネット認証をしない限り、ライセンス認証番号入力画面 (SETLCS.exe) により正規の認証番号の入力を求められます。

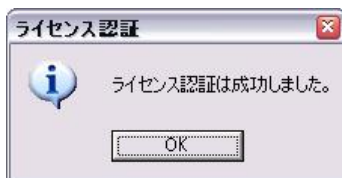
パッケージソフトウェア製品の起動ができません。 正規ライセンスの購入が必須となります。



⇒ Master Key (期限なしのライセンス認証番号) を入力し、[認証] をクリックします。

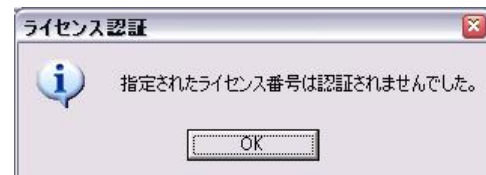
【ライセンス認証が成功】

[OK] をクリックします。



【ライセンス認証が失敗】

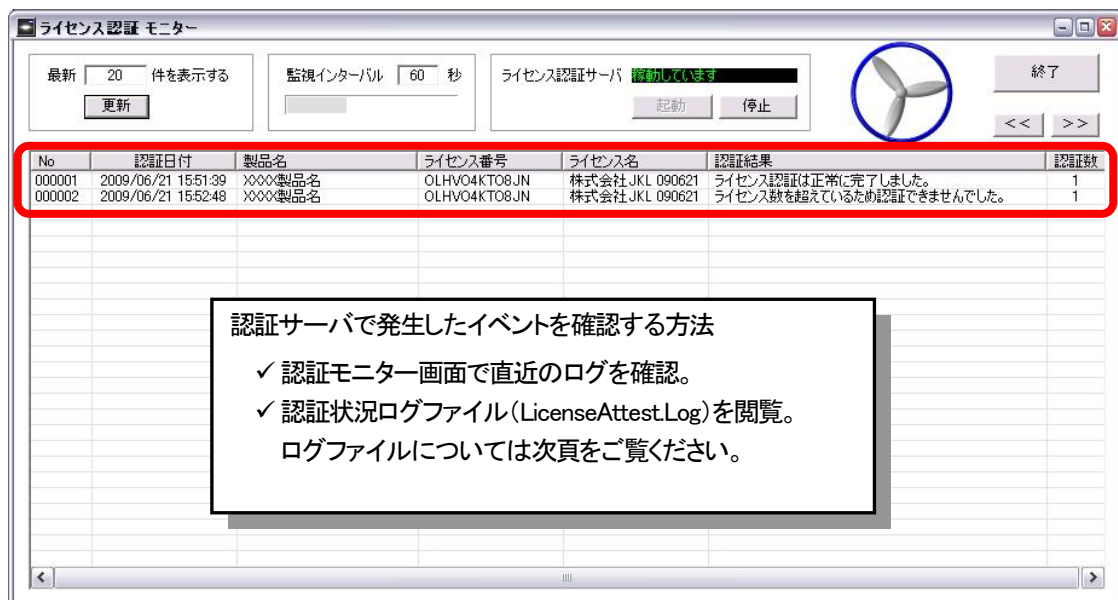
使用者はソフトウェアの製造元に照会をしなければなりません



⇒ [終了] をクリックします。

認証モニター画面 (パッケージソフトウェア製品の開発元において)

ライセンス認証が成功 (または失敗) したことを確認できます。

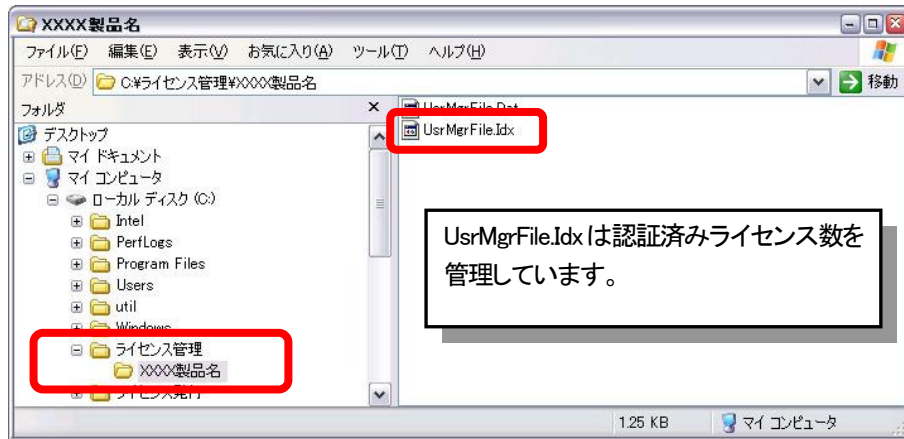


【注】 認証モニター画面の更新間隔 (監視インターバル) はデフォルトで 60 秒です。

[更新] をクリックすると随時、表示を更新します。

認証が完了すると、下記のフォルダにライセンス数管理 DB (UsrMgrFile.Idx) が生成されます。
(環境設定ファイル ENVIRON.DEF で指定した [DB_DIRECTORY] フォルダ下の製品名別フォルダ)

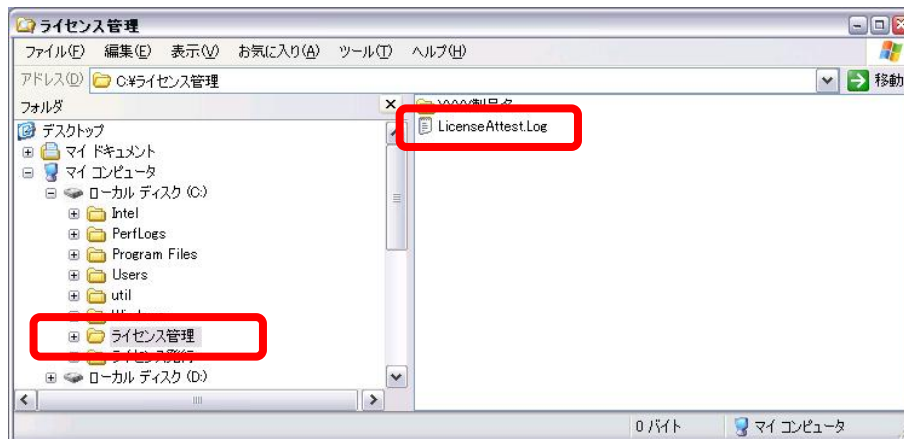
C:\¥ライセンス管理¥XXXX 製品名¥



ライセンス認証サーバプログラムでイベントが発生すると、下記のフォルダに認証状況ログファイル (LicenseAttest.Log) が生成されます。

(環境設定ファイル ENVIRON.DEF で指定した[DB_DIRECTORY]フォルダ)

C:\¥ライセンス管理¥



インターネット認証を導入する際のポイント

インターネット認証というだけでも不正コピーに対する抑止力となり得ます。
厳密に不正コピー防止策を実施される際は、下記の運用方法をご確認ください。

- 推奨は [発行ライセンス数] を [1] に設定し、パッケージソフトウェアを出荷することです。
 - ➡ ライセンス名 (ライセンスの発行単位) ごとにライセンス認証番号はユニークです。
ライセンス認証番号が流出した際に流出元を特定することが可能です。
- 発行ライセンス数を [1] にすると、パッケージソフトウェアの使用者 (ライセンスの購入者) が 2 回目のインストール / 認証をする際に、認証エラーとなります。
使用者は、ソフトウェアの製造元 (ライセンスの発行者) に照会をしなければなりません。
 - ➡ 照会対応の際、製造元は使用者の利用状況を確認することができます。
Microsoft 社製品のアクティベーション回数超過のケースと似ています。
- 正当な理由により使用者のインストール回数を追加で増やすには、製造元は新規の (別の) ライセンスを発行します。
製造元は新たな LICENSE.ini ファイルと新たなライセンス認証番号を、使用者に提供してください。
(例) 使用者が PC を初期化したため、パッケージソフトウェアの再インストールが必要となった。
 - ➡ 使用者は再インストールの作業後、製造元から提供された新たな LICENSE.ini ファイルをインストール先フォルダに上書きします。
使用者は新たな認証番号でインターネット認証をします。

5. その他の操作

- 5-1. ログイン名/パスワードを変更・追加する
- 5-2. 登録済みのライセンス情報を削除する

5-1. ログイン名/パスワードを変更・追加する

ライセンスの発行・管理を複数のオペレータが行うのは推奨できません。
運用方法の計画段階でオペレーション責任者を限定しておくのが有効でしょう。
セキュリティを考慮し、ログイン名/パスワードを編集する機能は、直感的に予想し難い手順によって隠蔽しています。

下記の二つのケースに分けて、ログイン名/パスワードの変更・追加手順を説明します。

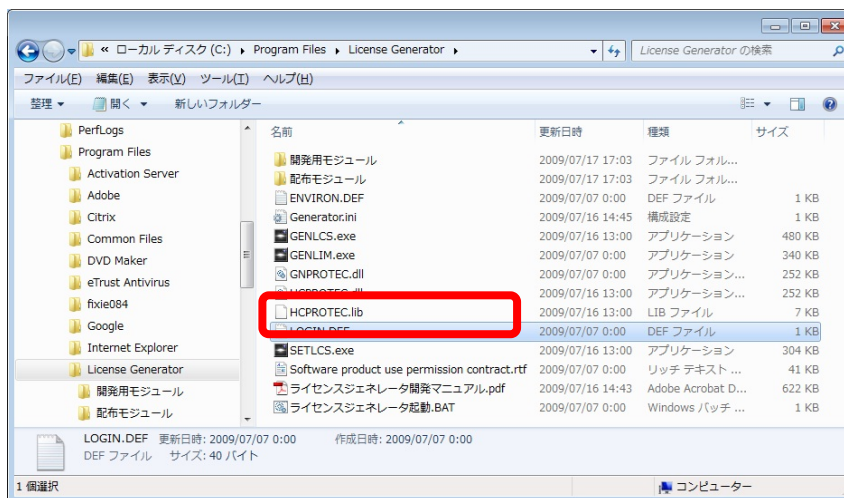
【License Generator のインストール直後に変更・追加をする】

【License Generator の使用開始後に変更をする】

【License Generator のインストール直後に変更・追加をする】

インストール直後、デフォルトのログイン名/パスワードは root / root または administrator / administrator です。

起動バッチファイルを初めて実行する前に、インストールフォルダ（デフォルトは C:\Program Files\License Generator）にある LOGIN.DEF をメモ帳などのテキストエディタで開きます。
LOGIN.DEF はこの段階では未だ暗号化されていません。平文で記述されています。

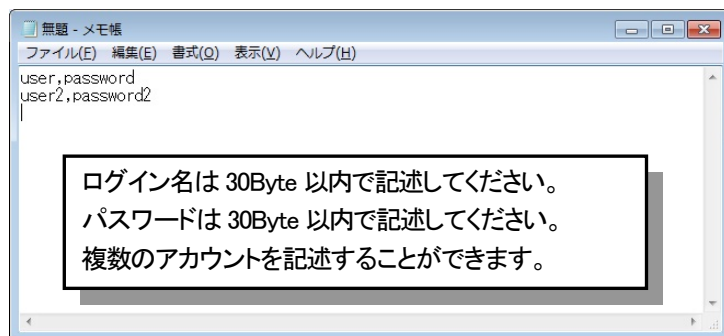


【License Generator の使用開始後に変更をする】

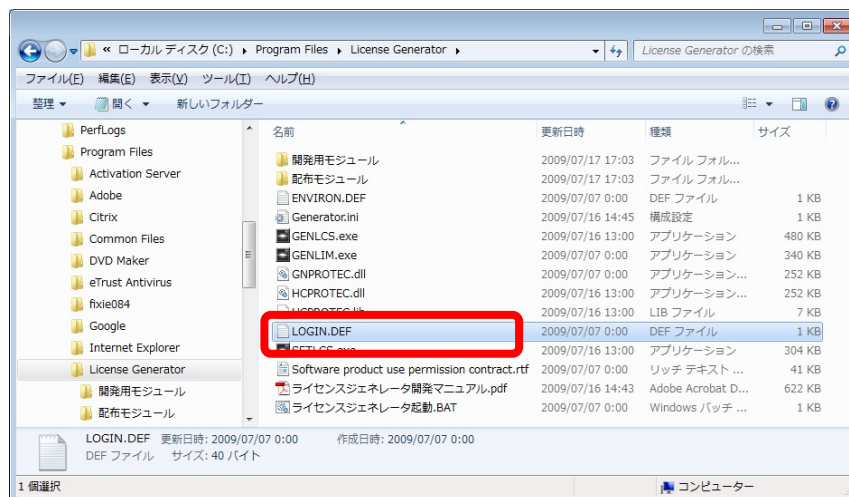
インストールフォルダ（デフォルトは C:\Program Files\License Generator）にある、LOGIN.DEF・LOGIN.PSW の二つのファイルを削除します。

- 【重要】** ▶ 既存のアカウント情報は消去されます。
▶ LOGIN.DEF・LOGIN.PSW の二つのファイルは、対でアカウント情報を構成しています。常に、二つのファイルを対で取り扱ってください。

メモ帳などのテキストエディタで、新規ファイルを作成します。
「ログイン名, (半角カンマ) パスワード」を行単位で記述します。



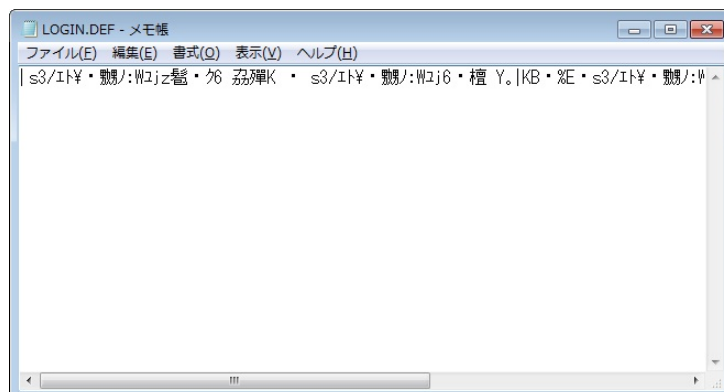
LOGIN.DEF のファイル名で、ライセンスジェネレータ インストールフォルダに保存します。



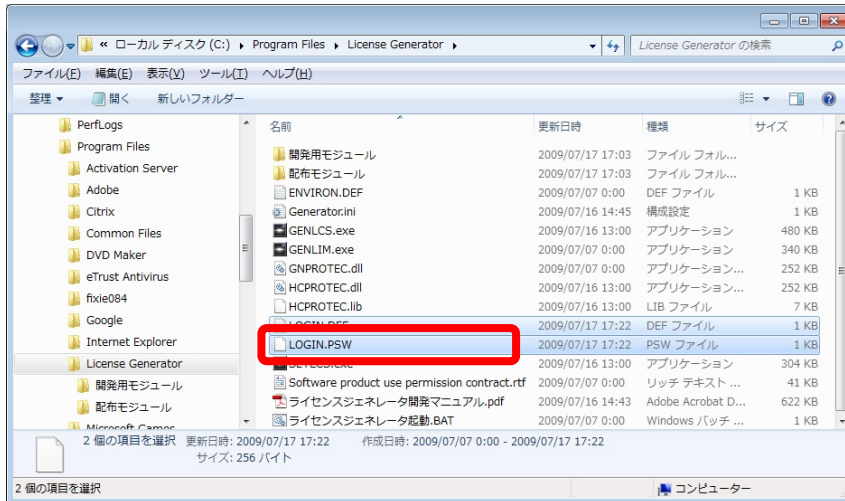
次に起動バッチファイルを実行すると LOGIN.DEF は暗号化されます。

一度暗号化された LOGIN.DEF は編集できません。

ログイン名/パスワードを変更するには、本項【License Generator の使用開始後に変更をする】の から操作してください。



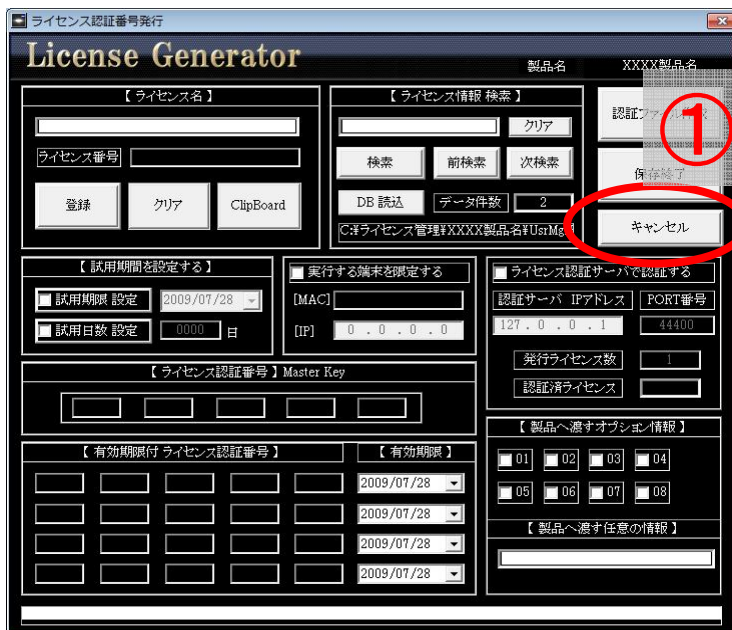
LOGIN.PSW が新たに作成されます。



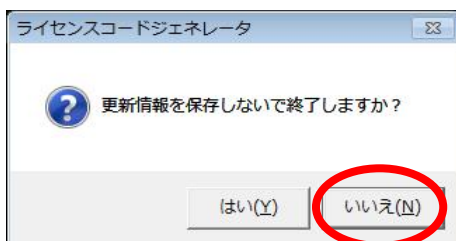
5-2. 登録済みのライセンス情報を削除する

登録したライセンス情報を削除することは推奨できません。証跡として残しておくのが有効でしょう。ライセンス情報の削除機能は、直感的に予想し難い手順によって隠蔽しています。

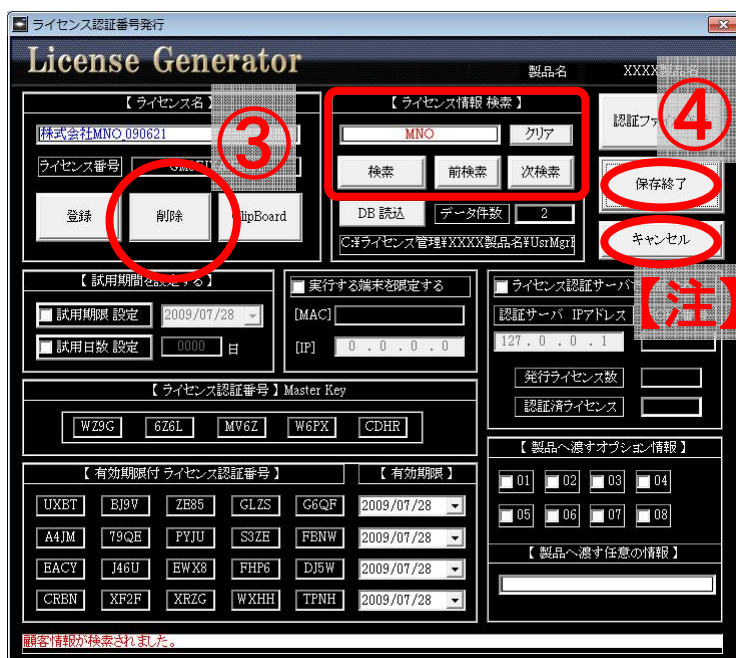
ライセンス認証番号発行画面 (SETLCS.exe) で [キャンセル] をクリックします。



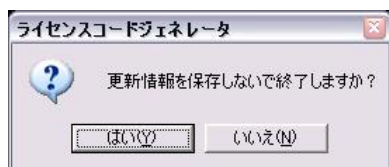
[いいえ] をクリックします。



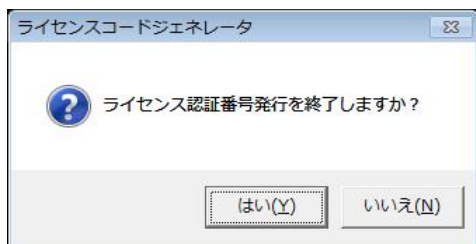
[削除] ボタンが出現します。([クリア] が [削除] に変化します)
 【ライセンス情報 検索】から該当するライセンス情報を検索し、[削除] をクリックしてください。



【注】 この時点で削除操作を中止するには [キャンセル] をクリックします。
 [はい] をクリックします。(保存をせずに終了してください)



削除操作を続けるには [保存終了] をクリックします。
 [はい] をクリックします。 ライセンス番号管理 DB (UsrMgrFile.Dat) に反映されます。



【補足】 ライセンス認証番号発行画面 (SETLCS.exe) を終了し、再び起動すれば [クリア] ボタンが復活します。

License Generator お問い合わせ先
株式会社アイ・ティー・ワン 新規事業開発本部 営業部
e-it1newbiz@it-one.co.jp

株式会社アイ・ティー・ワン 〒160-0022 東京都新宿区新宿 2-8-8

<http://www.it-one.co.jp/index.html>

© 2009 IT-One Co., Ltd.